

2012.09.10

「谷垣総裁の御労苦に感謝、安倍元総理に期待。」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は9月10日です。

実は先程、新たなビデオレターの収録が終わり、配信しようとしていました。

しかし、その矢先に、谷垣総裁が総裁選不出馬の会見をなさったそうなので、急遽ビデオレターを撮り直しました。谷垣総裁は自民党が下野してからの3年間、火中の中の栗を拾うどころか、泥田の中に手を突っ込み、泥さらいのような、非常に困難で誰も引き受けたがらない総裁職を本当に頑張ってこられました。このことに関しまして、敬意と感謝を申し上げたいと思います。私自身も京都選出であり、解散総選挙もあと一步のところまで迫ってきましたので、総裁選挙がなければ谷垣総裁で総選挙を迎えるのが筋道だと思っていました。しかし、前国会で野田総理が解散をしなかったため総裁選挙と重なり、今回のような事態に陥ってしまったのです。このことを思えば、谷垣総裁は大変な無念であったろうと思いますし、重ねて谷垣総裁の御労苦に感謝を申し上げたいと思います。

ここまで民主党政権を追い込んで参りましたけれども、野田政権のカウンターパートナーである谷垣総裁が、まさに政治生命を賭けて「税と社会保障の一体改革」に三党合意をし、法案を成立させました。このことは同時に、国民の信を問う解散総選挙とセットのはずでした。しかし野田総理は自分が約束を反

故にしたせいで、谷垣総裁が身を退くことになってしまったことに対して、政治家としてどのようにお考えになっているのでしょうか。政治に必要なものは

「信」であります。この「信」を谷垣総裁は守ったのです。しかし、これを守ったが故に総裁選辞退に追い込まれてしまった。野田総理自身はこのことを重く受け取らなければならないと思います。そして、一刻も早く谷垣総裁との約束である、解散総選挙を行って頂きたいと思います。

そして、その上で自民党の総裁選挙について申し上げます。まだ、行方は混沌としております。しかし、私自身は「戦後レジームからの脱却」を主張している安倍総理こそが今の日本に一番必要であると思っています。私は府会議員を17年間勤めて参りました。その当時から私自身が一貫して主張してきましたのが、「戦後体制からの脱却」です。憲法を象徴とした日本の占領時代からの様々な制度や考え方を見直していかなければ、今の日本はまともな国にならないと訴えてきました。私の考えと同じことが、総理の任にあった安倍総理の口から発せられたことに対して、私は大変感動し、勇気を貰った気が致しました。しかし、残念ながら安倍総理の理念は世間には浸透しないまま、総理を辞めなければなりませんでした。安倍総理も悔しい思いをしていたと思います。その後、民主党政権が発足してから約3年が経過しましたが、結果的には外交安全保障・経済政策といったありとあらゆる政策が無茶苦茶でした。また、税と社会保障については財源がないのにも関わらずバラマキだけをしたため、財

政破綻だけではなくモラルの破綻も引き起こしてしまいました。我々は直ちに間違った政治を止めなければなりません。その時に日本をどのような方向にもっていくのかといえば、戦後レジームからの脱却を第一に掲げなければならないということです。しかしながら、今現在に至りましても戦後レジームからの脱却が大事であるということが国民に浸透しているのかといえばしていない、と思います。経済、安全保障、教育などの個別の政策で様々なことを主張する方がおられますが、国全体として私と同じことを主張している方は安倍総理以外いらっしゃいません。

それ故に、国民に浸透していないのも事実であります。

全体を説明するのには時間がかかります。個別の問題をセンセーショナルに報道することは国民受けが良いのです。今回の総裁選挙も色々な方、例えば石破議員は防衛や外交政策通などといって売り込む方もいらっしゃいます。総裁選ではないのですが、維新の会も「維新八策」などと呼んで、個別問題をさも問題であると煽る方もいます。そうではないのです。国全体を国家観、歴史観を持って、問題意識を持ち、その問題に対して答えを用意しなければならないというのが、一番大切なことです。これがなかなか国民には浸透していません。

安倍総理が掲げたことが国民に浸透しないままなのであれば、いくら安倍総理が出馬しようと誰が出ようと、結局は戦後日本の政治の整理が出来ていない、ということなのです。我々が今なすべきことは現在の日本の置かれている現状、

戦後から今日に至るまでの様々な流れ、特に平成になってからの構造改革の顛末などを全て総括しなければならないということです。このことを自民党は下野してから行わなければならなかったのですが、手つかずのままだったのも事実です。そして、総括ができていないままであれば、自民党からどなたが総理になったとしても困難な状態になってしまうのです。民主党政治を止めるためにはどなたが総理になられましても良き方向に向かうと思います。しかし、個別問題ではなく、全体像をしっかりとやっていくには、もう少し時間が掛かると思います。そのようなことを勘案致しますと、私も安倍総理待望論を唱える者の一人です。安倍総理には「戦後レジームの脱却」という根っこの部分をもっと国民に広めて頂きたいと思います。我々もその一助を担っていきたいと思っています。その中から、安倍総理にもう一度登場して頂きたいという声が大きくなって初めて、安倍総理が戦後レジームからの脱却という、日本の政治の一番大きな問題解決を成し遂げられるのではないだろうかと思います。今回、初めて総裁選挙について言及しましたが、皆様にもこの意味を汲み取って頂きたいと思います。本日も御覧になって頂きありがとうございました。